

第 18 回新選組書展 総評

このたびは第 18 回新選組書展に、たくさんの作品をご出品いただき、ありがとうございました。北海道から沖縄まで、862 点の作品をご応募いただきました。感謝申し上げます。

力作揃いは毎回のことですが、今年は塾単位の応募が多くなった印象です。上手な作品が小学校の低学年から軒並み揃っている塾もありました。それはとても素晴らしいことですが、多様な書の美を探り、みんなの書展をめざすこの新選組書展は、上手い作品だけを選ぶのではないことをご理解ください。

また、ユニークな作品も選ぶことに躊躇のない同展ですので、今回も書家の先生があえてデザイン的に仕上げた作品や、ほのぼのとした良い雰囲気を持つ作品なども選ばれています。しかし、お習字や書は、ユニークといえども、真剣さの上にあってほしいものだと思います。お習字経験の有無にかかわらず、指導する立場の方は、書きなぐっただけのものや誤字あるものなど、一定の基準を律しての出品をお願いいたします。

入選作は、一般の部では前回と同様に比較的若い方の入選が目立ちましたが、「腕に覚えあり」と 90 歳以上の方の入選もありました。また、小学生高学年は力作が目白押しで、どれを選ぶか、とても難しい審査になりました。そうした中で大賞を射止めたのは、大阪府の山中千寿さんの、朱の囲み罫のなかに端正な隷書で書かれた「候文」でした。おめでとうございます。

近藤勇賞は、柔らかく自然な筆の運びで「松原忠司」と書いた長野の井坪大喜さん。土方歳三賞は、塾として、各人がそれぞれ違う書を出品した中から、小学校 5 年生の山下杏莉さんの隷書作の「誠」。井上源三郎賞は、料紙の上を軽やかに動いて自在ぶりが際立った奈良県の水本映嶽さんの「候文」が選ばれました。そして佐藤彦五郎賞は、7 度目の入選となりますが、扇面調の薄墨のなかに「松原忠司」と篆書で書いた宮城県山館茂さんの作品が選ばれました。特選、特選助勤、選之介賞、ユニーク賞に選ばれた皆様も、おめでとうございます。

このような入選作のほかにも、素晴らしい出来栄でありながら、惜しくも選外となった作品はたくさんあります。そうした作品を選外にするのはしのびないのですが、今回も 1 割も選に入らない入選数です。生徒が入って先生が入らないことも、この展覧会の面白さだと、ご寛容に願います。

この新選組書展では、ご応募いただいた一点一点の作品をすべて展示しています。ぜひ、会場でゆっくりとご鑑賞ください。